

カップの先に、広がる世界 ～身近で新鮮な国際協力を実行しよう！～

『グローバル教育コンクール 2010』国際協力レポート部門出展作品



埼玉県新座市立第三中学校

教諭 井戸 秀紀

I 単元について

第3学年 総合的な学習の時間 学習指導案

実践日：平成21年9月24日（木）～10月16日（金）【合計8時間】

対 象：第3学年 生徒（総数221名）

授業者：第3学年 担当教諭（鹿嶋 剛、内川 純、水島 善子、政所 宏真、岩崎 大和、井戸 秀紀、
中塚 時雄、堀江 栄、八坂 あゆみ、大関 さわ子）

1. 単元名 「キャップの先に、広がる世界 ～身近で新鮮な国際協力を実行しよう！～」

2. 単元設定の理由

（1）単元設定の価値

「私は今の生活を当たり前のこととして毎日学校に行き、おしゃれの話をして、高校生活への夢を語り合っています。でも、たまたま私がこの国に生まれてラッキーというだけでいいのでしょうか？」

授業実践前に本校の生徒が書いた「JICA 国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト 2009」の作品からは、この他にも自分たちの生活を振り返り、世界の現状を考える意見が数多く見られた。こうした意見は本校生徒に限らず、日本中の多くの子ども達が、程度の差こそあれ、テレビ等の報道を通して環境や戦争、貧困など世界規模の問題に関心を持っている。しかしながら、その問題意識を発信・論議する場面や具現化させる手段を持っておらず、世界と子ども達との間には溝ができています・・・。

したがって、この現状に立ち向かうことが国際理解教育の課題であり、それを担う教師の役割は子ども達の問題意識を深化させ、今できる国際協力を経験させることで、世界との距離を少しでも縮めていくことだと私は考え、これを本実践の最大の目的とした。

そのための手段として、本単元ではこれまでに学校全体で取り組んでいるボランティア（ペットボトルのキャップ収集）から世界とのつながりに気づかせ、青年海外協力隊の活動を基にして国際協力の現状を把握させ、自分たちにもできる国際協力を考えて学年全体で実行していくことで、国際社会に積極的に貢献する心を養っていきたい。

（2）生徒の実態

本校の第3学年には、明るく活発で楽しく学校生活を送っている生徒が多い。学校行事などには積極的に取り組み、集団での活動に対する意欲は高い。その反面、一人ひとりが自分の考えや主張をもって行動する力には課題が残る。本単元では、広い視野をもって自分の将来や世界で起こっている問題に対して学び、深め合っていくことによってその課題の克服に努め、一人ひとりが自分の考えから行動を起こせる力を身につけさせたい。

3. 単元の目標

- (1) 広い視野をもって異文化を理解し、「ちがい」を「ちがい」として認め合い、国際社会に生きる日本人としての自覚をもつことができる。
- (2) 世界規模の問題を自分の課題としてとらえ、世界平和・国際協力に努める心を養い、自分の生き方を主体的に考えることができる。

4. 単元の指導計画（8時間扱い）

時限	テーマ、ねらい	方法・内容	使用教材
1	【国際協力に参加していこう！】 ・ペットボトルのキャップ収集が国際協力につながっていることを確認する。 ・発展途上国の一例としてモンゴルの概要を知り、興味を持つ。  ・発展途上国を支援するJICAの概要を知る。	場所： 体育館 ①ボランティア委員がこれまでに全校生徒・地域から収集したペットボトルのキャップの数を発表する。【5分】 ②発展途上国という言葉から連想する国名をワークシートに書き出し、それを発表する。【10分】 ③モンゴルに関する3択クイズに答えて、発展途上国の一例を知る。【25分】 ④クイズで紹介されたJICAの概要の説明を受け、PRビデオを見る。【5分】 ⑤授業の感想を記入する。【5分】	・ペットボトルのキャップ  ・ワークシート1 ・パワーポイント「モンゴル国ルンウルトラクイズ！」 ・民族衣装(デール) ・お茶(スーデーツァイ) ・JICAのPRビデオ
2	【ストリートチルドレンを救う！】 ・ストリートチルドレンをうみ出す負の連鎖の原因を考える。 ・負の連鎖に対する日本からの支援策を論議する。  ・国際協力の必要性を見出す。	場所： 各教室 ①モンゴルの孤児院とストリートチルドレンについての説明を受け、負の連鎖が起こる原因を班で考える。【20分】 ②負の連鎖に対する支援策を自分で考え、ワークシートに書き出す。【5分】 ③自分の考えを基にして班で話し合い、最良の策を全体場で発表する。【20分】 ④発展途上国内で起こる問題を解決するために、国際協力が必要とされていることに気づく。【5分】	・孤児院の子どもとストリートチルドレンの写真 ・負の連鎖カード(8枚) ・ワークシート2 
3	【世界で活躍する日本人！】 ・世界と相互依存の関係にある日本の現状を理解する。 ・青年海外協力隊の概要を知る。 ・出前講座に対する意識を高め、講師への質問を考える。 	場所： 体育館 ①日本の輸入品をワークシートに書き出して発表し、世界の国々に支えられている現状を確認する。【10分】 ②日本からは車等の輸出品だけでなく、青年海外協力隊を派遣して技術提供も行っていることを、その活動紹介のビデオや説明を通して知る。【10分】 ③多種多様な青年海外協力隊の職種を見て、日本の技術が広く世界で求められている現状を理解する。【15分】 ④出前講座で実際に来校する講師からのビデオレターを受けて、講師への質問を考え、ワークシートに書く。【15分】	・ワークシート3 ・青年海外協力隊活動紹介ビデオ ・青年海外協力隊主な職種一覧 ・出前講座講師代表(A. T様)からのビデオレター 
4	【異文化を受け入れる！】 ・モンゴルで活躍するJICA職員からのメッセージを受け、国際協力を身近に感じる。  ・出前講座の事前学習として全	場所： 各教室 ①研修参加メンバーが作成したDVDを見る。その中でJICA職員(Y様・A様)からのインタビューを受けて感想をワークシートに書き、それを発表する。【30分】 ②バングラデシュに関するクイズに答え、国の位置や人口、面積、気候等の環境を知る。【10分】 ③ベンガル語で自分の名前を書き、バングラデシュの文化を体験する。【10分】	・研修メンバーが作成したDVD(モンゴルで撮影した写真と現地JICA職員のインタビュー) ・ワークシート4 ・ベンガル語の五十音図

	講師の派遣国バングラデシュについての予備知識を得る。		
5	【世界規模の問題を考える！】 ・スタンドアップという世界規模の活動を知り、それに対する参加の意識を高める。 ・ミレニアム開発目標を知り、世界規模の問題を8つに分類して具体的なイメージを持つ。 ・自分が関心を持っている(あるいは持っていない)問題を明らかにする。 ・世界規模の問題を論議することで、世界に対する問題意識や見識を深める。	場所：各教室 ①学年の廊下に掲示したスタンドアップのポスターに注目し、スタンドアップの説明を受ける。【10分】 ②スタンドアップ宣言文を読み、その中でキーワードとなるミレニアム開発目標についての説明を受ける。【10分】 ③8つの目標の中から、最も優先順位が低いと考える目標をひとつ選んでワークシートに書き、班の中でそれに対して論議する。【10分】 ④8つの目標の中から、最も優先順位が高いと考える3つの目標を選んでワークシートに書き、班の中で論議した上で全体に発表する。【20分】	・スタンドアップ関連ポスター  ・スタンドアップ参加方法説明書 ・スタンドアップ宣言文 ・ワークシート5
6	【青年海外協力隊員の実体験から学ぶ！出前講座その1】 ・青年海外協力隊帰国隊員の講師(M. S様)から体験談を聞き、国際協力を身近に感じる。 ・ワークショップを体験し、バングラデシュの世界に触れる。	場所：体育館(1・3・5組の奇数クラス) ①講師(M. S様)から国際協力に参加した動機等を聞く。【10分】 ②写真やクイズを通して、講師が派遣されたバングラデシュの様子を知る。【20分】 ③民族衣装の試着や非識字体験のワークショップに参加して、バングラデシュの文化や現状に触れる。【15分】 ④講師からのメッセージを聞く。【5分】	・パワーポイント ・民族衣装(サロワカミューズ等)  ・ベンガル語の指示文(ワークショップ用)
7	【青年海外協力隊員の実体験から学ぶ！出前講座その2】 ・青年海外協力隊帰国隊員の講師(1・2組担当:R. S様、3・4組担当:A. I様、5・6組担当:A. T様)から体験談を聞き、国際協力を身近に感じる。 ・講師とのコミュニケーションを通して、国際協力に対する見識を深める。	場所：各教室(1・3・5組の奇数クラス) ※6・7時限は2時間連続の時間割で、体育館と各教室を1時間ずつ、前後半入れ替え制で授業を行った。 ①各講師から国際協力に参加した動機等を聞く。【10分】 ②写真やクイズを通して、各講師の現地(バングラデシュ)での活動や実体験から感じたことを具体的に知る。【30分】 ③各講師に質問をする。【10分】 ※翌日の朝の会の時間に、各講師へ感想を手紙にして書いた。【10分】	・パワーポイント  
8	【国際協力に参加する！】 ・各学級が受けた出前講座を振り返り、様々な分野で青年海外協力隊が活躍していることを全体で確認する。 ・ミレニアム開発目標に基づき、自分が今後取り組んで(心掛けて)いくことを考える。  ・スタンドアップに参加し、今できる国際協力を体験する。	場所：体育館 ①写真や各学級の感想を通して、出前講座の内容を全体で共有する。【10分】 ②バングラデシュも含め世界全体で巻き起こされる問題を、8つのミレニアム開発目標に基づいて復習する。【5分】 ③以下の手順でワークショップを行った。まず、各自が関心のある目標ごとに場所を分かれて移動する。次に、各目標に関連して自分ができる国際協力を考えて意思表示カードにそれを書き、模造紙に貼る。(適宜、各目標の分担の先生から補足説明を受ける)その後、時間の限り他の目標の場所にも行き、同様の活動を行う。【25分】 ④全体で集合隊形をつくり、スタンドアップに参加する。【10分】	・パワーポイント ・ミレニアム開発目標のプレート(8つ) ・補足説明に使う資料(フェアトレード商品等) ・意思表示カード ・のり ・模造紙(8枚)  ・スタンドアップ宣言文

5. 評価の観点

課題設定の能力	課題解決の能力	学び方、ものの考え方	学習への主体的、創造的な態度	自己の生き方
・これまでの国際協力についての学習を振り返り、追及の視点を明確にして課題を設定しようとする。	・課題解決の見通しを持ち、必要な情報を収集したり、分析したりし、自分なりの方法で解決しようとする。	・見通しを持って計画を立て、多様な方法で国際協力について調べようとする。 ・自他の考え方や活動を振り返り、国際協力についての学習を高めようとする。	自他の取り組み等を参考に、自分の学習を見直したり、修正したりしながら学習を深めようとする。	社会の一員としての自覚を高め、よりよい国際協力の活動について考えようとする。

II 授業の詳細

(上記の指導計画の中で、補足説明が必要な部分の抜粋)

1 時限目：【国際協力に参加していこう！】

1 ペットボトルのキャップ収集について

・今年度新設したボランティア委員会を中心に、5月から全校を対象に取り組みを始めた。授業では、この時点（9月24日）で合計44,498個を収集し、それが約56人分のワクチンに相当することと、年間合計80,000個（100人分のワクチン費用に相当）の目標達成に向けての協力を呼びかけた。



ボランティア委員によるキャップの回収、洗浄、集計作業の様子

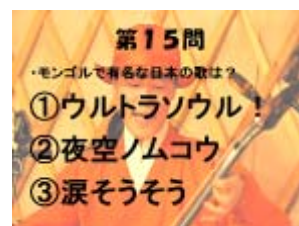
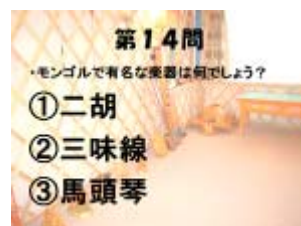
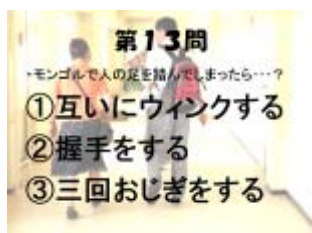
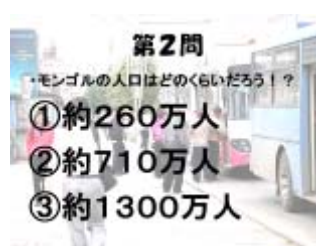


2 モンゴルに関する3択クイズについて

・文化紹介の他に、11問目では火力発電所で活躍するシニア海外協力隊員の活躍を紹介する等、JICAの概要説明につながるようにした。また、クイズの途中、民族衣装を着た同僚の先生が登場する場面や、お茶を試飲する場面等を設定した。



1問	国の地図上の位置	2問	人口	3問	面積
4問	国旗	5問	モンゴル語でこんにちは	6問	モンゴル語でI love you
7問	民族衣装の名前	8問	モンゴルの家の呼び名	9問	お茶の中に入れるもの
10問	輸入に頼る食べ物	11問	これは何発電所だろう	12問	ゴミ処分の仕方
13問	人の足を踏んだら・・・	14問	有名な楽器の名前	15問	現地で有名な日本の歌



<生徒の感想抜粋>

- ・モンゴルで野菜がほとんど作られていないことに驚いた。JICAが野菜を作るために指導者を派遣していることも初めて知り、とても良いことをしている機関なんだということが分かった。
- ・日本はモンゴルの発展に結構協力していると思いました。発展途上国の問題は難しいと思った。
- ・クイズが楽しかった! モンゴルのことがいろいろ分かった。
- ・「世界平和」って何よりも一番大切なことだと改めて思った。何かささいなことでもできたらいいなと感じた。
- ・JICAはすごいなと思った。人のために働くのはすごいと思う。

- ・ JICA にはとても興味があります。ボランティアは大変だし、やれる人はとても数少ないと思います。私はできないけど。
- ・ 日本とのちがいがよく分かった。
- ・ キャップは小さい物だけど、それを集めることで救われる命があるのは、すごいと思う。
- ・ モンゴルのことでいろいろ知れてよかった。自分も色んなことに協力して貧しい人たちを助けたい。
- ・ モンゴルは楽しそうで、モンゴルでなくていいからどこか外国に行って色んな人と話してみたいです。
- ・ 日本に JICA みたいなのがあって、よかったと思った。これのおかげで、少しでも国が発展するといいな。
- ・ モンゴルに日本人が多く行っているということが分かり、もっとモンゴルと日本が交流すればいいのにと
- 思った。
- ・ 日本とモンゴルは違いが多いけど、関わりがあることが分かった。
- ・ たぶん、モンゴルはモンゴルなりの幸せがあると思います。
- ・ 発展途上国のモンゴルと日本のちがいをよく理解した。お茶に塩を入れるのは意外だった。
- ・ 世界にはたくさん困っている人たちがいるので、キャップとかちょっとしたコトでも協力していきたい。
- ・ 自分たちがいつも勉強している間に、JICA の人とか色んな人が貧しい国の人を助けているんだと知った。素晴らしいと思った。自分もいろんな事に参加してみたいと思いました。

2 時限目：【ストリートチルドレンを救う！】

1 ストリートチルドレンをうみ出す負の連鎖について

- ・ 下記ホームページ『NGO ゆいまーるハミングバーズ』内にある「貧困のサイクル」を参照して作った 8 枚のカードを班ごとに配布し、並び替えさせることでその原因を考えさせた。

里親制度を作るのがいいと考えました！



負の連鎖(8 枚のカード)



<生徒の考え抜粋>

- ・ 他の国に行かせて、就職させる。
- ・ 就職できるまで、どこかの施設に入れておく。
- ・ 子どもがほしいと思っている安全な大人に育ててもらう（里子）。
- ・ 赤ちゃんポストをつくる。
- ・ 孤児院卒業者用の働く場所を作ってそこで売っている物とかは値段を安くしたりして繁盛させる。
- ・ 孤児院に 18 歳以上でも居られるようにする。
- ・ 孤児院出身者用の職をつくる（パンや服などの店）
- ・ 親は 20 歳になるまで子どもを育てなければいけない（子どもを捨てたら罰金）。
- ・ 募金に協力する。
- ・ ニューディール政策みたいに仕事をふやす。
- ・ 簡単な気持ちで子どもを産まない。
- ・ キャップみたいに普通に捨てるものをお金にかえる。

3 時限目：【世界で活躍する日本人！】

<生徒から講師への事前質問の抜粋>

- ・なぜ協力隊をやろうと思ったのですか（多数）
- ・協力隊のやりがいや良いところ、楽しかったこと、大変だったことは何ですか（多数）
- ・仕事の具体的な内容はどのようなものですか（多数）
- ・協力隊に参加することに、迷いはなかったのですか。また、何カ国語話せましたか。
- ・なぜ日本では感染症対策をやらないのですか。
- ・初めてゴミを見た時の感想、どう思いましたか。
- ・日本に途中で帰りたいとは思わなかったのですか。また、正直、感染症とか怖くないのですか。
- ・ゴミは日本に比べて多いですか。また、ゴミはどのように分別されていましたか。
- ・ゴミはたくさんあるのに、どのように解決していくのですか。また、ゴミ問題はどのくらい深刻なのですか。

4 時限目：【異文化を受け入れる！】

<DVD に対する生徒の感想抜粋>

- ・貧乏な人と裕福な人との差が激しかったりする世界で、それを本気で平和にしようとしている人がいることが分かって、まだ世界平和も捨てたもんじゃないなと思った。
- ・子どものころに自分が思ったことを大人になって実行できることがすごいと思った。
- ・先進国の人全員（豊かな暮らしをしている人）が貧しい人たちにできることはないかと考え、みんながボランティアなどの活動はできないけど、少しでもいいからまず気持ちが大事だと思う。
- ・外国でもたくさんの日本人が頑張ってるんだと分かった。その国、その国の人たちのために何かするってことはすごいと思った。
- ・世界中で住む環境、食、文化とかがその国々でちがって世界がみんな一緒ってのはないし、だから自分の住んでいる国以外の国に行くってのはすごい勉強になるんだろうなと思う。そういうことをやってみようとする人たちは、すごいんだと思った。

5 時限目：【世界規模の問題を考える！】

1 スタンドアップについて（詳細は下記ホームページを参照）

- ・毎年 10 月 17 日の世界反貧困デーにあわせて開催され、10 月 16～18 日の期間中に貧困問題を考える世界中の人々が立ちあがり（スタンドアップ）、その人数でギネス記録に挑戦する世界規模の活動である。本授業実践の最終日が 10 月 16 日とタイムリーであったため、学年全体で参加できる活動として着目し、ポスターやパンフレット、宣言文等を用いて生徒にも活動の説明を行った。

2 ミレニアム開発目標について（詳細は下記 UNDP の資料を参照）

- ・これは 2000 年に開催された国連ミレニアム・サミットで採択された国連ミレニアム宣言と、1990 年代に開催された主要な国際会議で採択された国際開発目標を統合し、世界の問題解決のために掲げられた 8 つの目標である。本実践では世界規模の問題を明確にするために以下の 8 つの目標を使用し、各々がどの問題に関心があるか（もしくは無いか）を考えさせ、班で論議させた。

- | | |
|----------------------------|------------------------|
| 1:とてつもない貧困と飢えをなくそう | 2:みんなが小学校に通えるようにしよう |
| 3:ジェンダーの平等を進めて女性の地位を向上させよう | 4:子どもの死亡率を下げよう |
| 5:女性が健康な状態で子どもを産めるようにしよう | 6:エイズやその他の病気が広がるのを防ごう |
| 7:環境の持続可能性を確保しよう | 8:世界の一員として、先進国も責任を果たそう |

<生徒の意見抜粋>

【捨てる目標】

目標2：学力があるからって生き延びられる訳ではないし、学力が全てではないから。

学校に通わせてあげたいけど、命とかの方が大事だから、これを切り捨てるしかない。

目標3：女性は強い。なんとかするだろう。

目標5：女性の地位向上があれば、女性を死なせないように頑張ると思う。

目標8：これは当たり前のことだから。わざわざ目標にする必要がない。協力しない国はないと思う。

【残す目標】

目標1：この目標が途上国を救う。貧困をなくせば、他の目標の達成にもつながる。

目標2：ちゃんとした教育をすれば、新たな発見ができるかもしれない。人生に最も大切なものだから。

目標7：人は自然に頼らないと、生きていけないから。

目標8：みんながやる気出さないと、誰か一人が頑張っても無理だと思う。

6・7時限目：【青年海外協力隊員の実体験から学ぶ！出前講座その1・その2】

<生徒の感想抜粋>

・バングラデシュの話聞いて初めて聞いたことがほとんどでした。環境の話聞いて一番びっくりしたこと

は、ごみを拾ってそれを売っていることでした。子どもたちが働いている光景は日本で見られなくとても貧しさを感じ、悲しい気持ちになりました。

鉄1kgで約60円で、私は60円をすぐ使っていると思います。60円稼ぐことはすごく大変だと思い、自分より小さい子どもたちが働いていることは信じられませんでした。

今自分がどれだけ幸せなのか改めて感じました。この話を聞いて、世界にはたくさん貧しい人たちがいることが分かりました。

もし自分にできる活動があったら積極的に参加したいと思います。

バングラデシュの話聞いてたくさんのことを学べたと思います。ありがとうございました。

・先日はお忙しい中、大事な機会をありがとうございました。

今回の話を聞いて、改めて、自らの間違った「当たり前」を実感しました。

水があって当たり前、食料があって当たり前、メディアがあって当たり前・・・など、たまたま住んでいる場所が違うだけで、生活環境が大きく違うことを悲しく思いました。

今回の例はバングラデシュでしたが、他にも日本とは真逆の生活を送っている国は、かなり多いと思います。このような事から、僕達は、日頃の生活を見直していく必要があると思いました。



全生徒の感想を手紙にしてまとめ、出前講座の講師のもとへ送った。

8 時限目：【国際協力に参加する！】

1 本時に行ったワークショップについて



関心のある目標ごとに分かれて移動する(8 か所)。



各目標に関連して、自分ができる国際協力を考えて意思表示カードに書き、それを模造紙に貼る。



模造紙は 8 枚で、それぞれには「STAND UP！」の文字が書かれていて、その周囲にカードを貼る。



意思表示として・・・ゴミを減らす。My はしを使う。植物を育てる。(目標 7)
協力し合い、世界平和を大切に生きる(目標 1)。女が強くなる(目標 3)など

2 スタンドアップの実施について

- ・意思表示カードを貼って作り上げた「STAND UP！」の模造紙を置いて学級委員長に宣言文を読ませ、「スタンドアップ！」という掛け声と共に学年全員で立ちあがった。
- 国際協力が、ひとつの学年行事になった。



3 本時の目標

- ・これまでの授業で学習した内容を総体的に振り返り、世界規模の課題に対して自分自身の意思表示をすることができる。
- ※世界規模の問題とは、2000 年 9 月の国連ミレニアムサミットで採択されたミレニアム開発目標が掲げる 8 つの分野に基づいて設定する。
- ・当日から世界各地で行われるスタンドアップという具体的な行動に参加することを通して、国際協力に関わっていく態度を身につけることができる。

4 本時の展開

	活動の内容	指導上の留意点	評価の観点	資料等
活動の開始	1. テーマの説明 (1) 出前講座の様子を振り返る。 (2) テーマの趣旨と活動の方法についての説明を聞く。	・プロジェクターを使って前時に行った出前講座の様子を振り返る。 ・テーマの設定理由及び活動のねらいを分かりやすく説明する。	・落ち着いた雰囲気で行った出前講座の活動が始めることができたか。 ・テーマの設定理由及び活動のねらいが理解できたか。	プロジェクター
活動の展開	2. 世界規模の課題に対する意思表示 (1) 関心のある分野ごとにわかれて移動する。	・全体の動きを指示する。 ・積極的に活動できるような雰囲気づくりをする。	・意欲的に説明を聞くことができたか。	
	分野ごとのテーマ 1：とてつもない貧困と飢えをなくそう 2：みんなが小学校に通えるようにしよう 3：ジェンダーの平等を進めて女性の地位を向上させよう 4：子どもの死亡率を下げよう 5：女性が健康な状態で子どもを産めるようにしよう 6：エイズやその他の病気が広がるのを防ごう 7：環境の持続可能性を確保しよう 8：世界の一員として、先進国も責任を果たそう			
	(2) 各分野で詳しい説明を聞く。 (3) 各分野の課題に対し、自分自身の思いや関わり方を書いて模造紙に貼り付ける。 (4) その他の分野にも移動し、同様に行う。 (5) 集合隊形に戻る。	・各分野での活動の様子や時間配分から判断して、適宜移動を促す。	・世界規模の課題に対する自分自身の意思表示をすることができたか。 ・積極的に移動し、多角的な視点を持つことができたか。	分野ごとの資料 模造紙 意思表示カード のり
活動のまとめ	3. 国際協力の実践 (1) スタンドアッププロジェクトの説明を聞く。 (2) 前期学級委員会委員長が宣言文を読む。 (3) 全員でスタンドアップを行う。 (4) 本単元のまとめの話を聞く。	・プロジェクターを使って簡潔に説明する。 ・委員長の生徒がステージに立ち、全体に向かって宣言できるようにする。 ・「Think Globally, Act Locally」をキーワードにして、どんな小さな行動でもみんなで見守ることが、私たちにできる国際協力であることをおさえる。	・スタンドアッププロジェクトの趣旨を理解することができたか。 ・積極的に活動に取り組むことができたか。 ・まとめの話を真剣に聞くことができたか。	プロジェクター

Ⅲ 授業実践を終えて

「先日、近所のスーパーにお願いして
ペットボトルのキャップ収集の袋を置かせて
もらいましたよ!」と、最後の授業を終えた
後に一人の生徒が報告に来た。

私は彼女の勇気と行動力に感動し、授業が
ひとつ実を結んだような喜びを感じた。

もちろん全ての生徒がこうした行動を起こす

ことは難しい。しかし、キャップに限らずとも、一人でも多くの生徒にとって、授業を通して実際に起
こした行動(生徒同士の論議や青年海外協力隊帰国隊員との交流、スタンドアップ等)が国際協力の第
一步となり、今後世界との距離を縮めるきっかけになればと願っている。

まとめに代えて、7 時限目の後に生徒が書いた出前講座の感想文を紹介したい。

「発展途上国に日本とは全然違った生活をしている人々がいるのは、たぶんほとんどの人が知っていた
と思います。でも、そういう人たちを助けようと行動できる人は本当にすごいなあと感じました。

ゴミの問題や子どもの問題など、世界にはたくさん問題があることを改めて知って、私も何か行動できるこ
とはないか考えさせられました。渡具知さんの発展途上国での活動を聞いて本当におどろきました。言葉が
しゃべれなかったら勉強して、自分の意志をしっかりとつらぬいて…。そんな人がもともと増えればなと
思いました。世界にはたくさんの方がいて、みんなが豊かな生活をしているわけではないと感じさせられて、
世界平和について本気で何かをしなければいけないと思いました。

何でも渡具知さんたち任せではなくて、私たちも何か行動を起こしたいと思いました。」

こうした生徒の思いに応えるべく、次年度以降も「身近・新鮮・具体的」なテーマを用いた授業がで
きるよう研鑽を重ねたい。また、生徒と世界との距離を縮めていくために、例えばキャップはいかにリ
サイクルされてワクチンになっていくのかという見えない経路を見えるようにさせていくことを今後の
課題として取り組んでいきたい。最後に、本実践においても同僚の先生方や講師の方々から多大なご協
力を頂いた。今後の実践の中でも、授業に携わる全ての方々への感謝の気持ちを常に大切に、課題の
解決へと邁進していきたい。



Ⅳ 参考文献（引用文献・参考資料）

- ・『エコキャップ推進協会』、<<http://ecocap007.com/>>
- ・『世界の子どものワクチンを 日本委員会』、<<http://www.jcv-jp.org/>>（以上 1 時限目）
- ・池間哲郎『あなたの夢はなんですか？私の夢は大人になるまで生きることです』、到知出版、2004 年
- ・『NGO ゆいまーるハミングバーズ』、<<http://yuimar.org/>>（以上 2 時限目）
- ・『JICA-国際協力機構-』、<<http://www.jica.go.jp/>>（3 時限目）
- ・『ベンガル語単語集』、<http://book.geocities.jp/ben_nichi/index.htm>（4 時限目）
- ・『STAND UP TAKE ACTION』<<http://www.standup2015.jp/>>
- ・『特定非営利活動法人：ほっとけない世界のまずしさ』<<http://www.hottokenai.jp/pub/>>
- ・『ミレニアム開発目標』、国連開発計画（UNDP）、2008 年（以上 5、8 時限目）

V 使用教材

<ワークシート 1>

国際理解 プロジェクト vol.1

～キャップの先に、広がる世界～

<名前>

Q1. 地図を見ながら、どこが国?

「地図見ながら」という言葉から連想する国名を、思いつく限り下に書き出していこう!

<地図見ながら連想する国>

アフガニスタン、イラク、シリア、サウジアラビア、モロッコ、
マダガスカル、アフガニスタン、パキスタン、モンゴル



Q2. モンゴルタイズを通して、世界と日本のちがいを感じよう!

国は最大して何回正確でできるだろうか? *

*国名は全て3回タイズです。下の解答らんに①～③の数字を書いて答えよう!

第1問	③	第2問	③①	第3問	①③
第4問	②	第5問	②①	第6問	③
第7問	③②	第8問	①	第9問	②
第10問	③①	第11問	①②	第12問	③
第13問	②	第14問	③	第15問	③

<答え>

日本国際協力機構
JICA さん

合計 9 / 15

Q3. 今日の授業の感想

(モンゴルのこと、JICAのこと、国際協力のこと等...)

<感想>

モンゴルの生活のことなどよく分かった。
いつも、キャンプをしてるみたいだと思
った。思えば、先、良いことだと思



3年5組's プロジェクト モンゴルの子どもを救おう！

＜名前＞

step 1. ストリート（マンホール）チルドレンが生まれ続ける

食の連鎖を止めるためには何が必要だろうか！？

⇒日本からどういう援助をすれば、この連鎖を止めることができるだろうか！

まずは自分自身で考え、なるべくたくさんのアイデアを出そう！



＜自分のアイデア＞

- ・土地がないから建物をたくさん建てて働く場所を増やす



step 2. 班の中で意見を出し合い、

班員の意見を全て聞いた上で、ナイスアイデアを発表しよう！



手順①：班員から時計まわりに、自分のアイデアを班の中で発表する。

- ・①：聞く時は、他の人の意見をメモする。

- ・②：全員発表を終えたら、出た意見の中でもナイスなアイデアをまとめて、発表の準備をしよう！

＜他の人の意見のメモ＞

孤児院卒業生用の働く場所を作ったところ、売ってる物とかは値段を安くして売ればよいのでは？

＜あなたの班のナイスアイデア！＞ ※これを発表しよう！

ストリートチルドレンを減らす
→ 0

国際理解プロジェクト vol.2

～世界で活躍する日本人～

＜名前＞

Q1. 日本が外国から輸入しているものは何だろう？

自分の知っている made in ○○を考えて書いていこう！



＜日本が海外から輸入しているもの＞

服、牛肉、豚肉、鶏肉
野菜、果物、動物、車、文房具、木材
機械、楽器、お菓子



Q2. 裏面の「青年海外協力隊 主な職種一覧表」を見て、

自分のお家の人や身近な大人の人と関わりのある職種を囲ってペンで色をつけよう！

また、将来自分がやってみたい職種にも、別の色をつけよう！



Q3. 実際に、三中来てくださる協力隊員の方々への質問を考えよう！（派遣国・職種）

- ① 佐藤 康希さん（バングラデシュ・村落開発普及員）※現在もNGOとしてバングラデシュを支援
- ② 斎藤 亮太さん（バングラデシュ・工作／機械）※日本で航空機エンジンの部品製造などの職を経験
- ③ 井上 愛さん（バングラデシュ・感染症対策）※学校等で感染症防止に努め現在も看護師として活躍
- ④ 渡辺知 愛里さん（バングラデシュ・環境教育）※現地清掃局に務めて都市部のゴミ問題に取り組む

＜質問を考えて書いてみよう！＞ ～なぜ？何を？どうやって？などなど……～

- ・世界で、今一番は起っている感染症は ^{なんですか？}
- ・薬でも治らない感染症はなんですか？
- ・なぜ日本では感染症がはやらないんですか？



青年海外協力隊 主な職種一覧表

お父さんやお母さんほど身近な人の世事はあんなに
自分が困難なことを、簡単に、すんなりとこなすのを見てお！

国際理解 プロジェクト vol.3

～日本と違うものを受け入れよう～

<名前>

Q1. 世界（モンゴル）で活躍する人々の様子やメッセージを受けて、自分が感じたことを書こう！

<Q1の感想>

世界中の貧しい国の人達を助ける人を見て、自分の国じゃないのに、自分には関係ないのに、貧しい人を助ける姿を見て、すごいなと思った。

～来週に本校する元青年海外協力隊のみなさんが行っていた国、バングラデシュについて！～

Q2. 国に関する基本データをクイズでまとめてみよう！

- ① バングラデシュは、次の地図上のどれだ？
- ② バングラデシュの人口は何人だろう？
A. 約3億人 B. 約1億5000万人
C. 約1億人 D. 約5000万人
- ③ バングラデシュの面積はどれくらいだろう？
A. 約960万km² B. 約67万km²
C. 約38万km² D. 約15万km²
- ④ バングラデシュの気候は？（暑い/寒いの？）
A. 熱帯 B. 温帯 C. 乾燥帯 D. 冷帯
- ⑤ バングラデシュの国旗はA～Dのどれだろう？



解答らん	① B C	② B	③ C D	④ C A	⑤ B
------	-------	-----	-------	-------	-----

※正解は、裏面下を見て確認してね。間違ってもいいから、チャレンジが大切！

Q3. バングラデシュの言葉（ベンガル語）で、自分の名前を書いてみよう！ 裏面へ60！

＜ワークシート4裏面＞

☆ベンガル語の五十音図☆

ペンペン草の詩を歌ふ日本人は、
田舎生活の理想の歌では、世界でも数少ない一首の詩かも知れず。

[illegible]

step 1. 自分の名前をベンガル語で書いてみよう!

(क) हेमता हर्मिली

মূল্য (ব্যাংকাল মূল্য) হোয়া মা গু চা হুই ল্যা

Step 2. 自分の尊敬する人、好きな人、あこがれの人の名前をベンガル語で書いてみよう!

निनी शिखा कदु ना बा

＜松の江崎＞

① ② ③ ④ ⑤

日本より小さい国様に、日本人以上の人口＝世界一の人口密度！

[illegible]

青年海外協力隊のみなさんに、このあいさつを送ってみたいと思います。

国際理解プロジェクト vol.4

～世界の問題を解決するために～

<名前>

☆「ミレニアム開発目標」(Millennium Development Goals: MDGs)とは・・・



目標1【貧困をなくす】
とてつもない貧困と
飢えをなくそう



目標5【母を死なせない】
女性が健康な状態で妊娠し、
子どもを産めるようにしよう



目標2【教育をみんなに】
みんなが小学校に
通えるようにしよう



目標6【病気の予防】
HIV/エイズ、マラリア、その
他の病気が広がるのを防ごう



目標3【女性の地位向上】
ジェンダーの平等を進めて
女性の地位を向上させよう



目標7【環境の保護】
環境の持続可能性を
確保しよう



目標4【乳幼児を助ける】
子どもの死亡率を下げよう



目標8【先進国の努力】
世界の一員として、
先進国「も」責任を果たそう

Q1. この8つの目標の中から、1つどうしても捨てなければ国連での話し合いがまとまりません!

あなたが考える、「捨てる目標」はどれですか? ひとつ選んで、理由も答えよう!

【捨てる目標】	目標4	【理由】	病気の予防と母や健康な状態でいかに病気の予防を減らす
---------	-----	------	----------------------------

Q2. おおっと・・・他にも目標を捨てなければ、この会議は決裂して終わってしまいます!

あなたが考える、「最後まで残す3つの目標」はどれですか? 理由もしっかり書こう!

【残す目標】	目標2	【理由】	いかにした大人に育てさせいけるかわ
【残す目標】	目標7	【理由】	水とがきれいにすれば病気に変らない
【残す目標】	目標8	【理由】	みんながやめたいと誰かがやめればでも無理だ思う